

豊平會報

北海学園大学同窓会 ● 編集責任者 / 木村勝照 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 TEL 011-841-1161



CONTENTS

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 2 令和4年度評議員会開催 | 9 支部だより |
| 3 輝く北のまち紹介リレー 平取町 | 10 OPEN SPACE |
| 4 研究室のいま 岡本浩一教授 | 13 クラブ・サークル活動通信 |
| 5 同窓生企業ファイル | 14 令和3年度事業報告 / 令和4年度事業計画 |
| 6 OBの本棚 | 15 令和3年度収支決算書 / 令和4年度予算 |
| 8 同窓生のお店探訪 / 親子de学園 | 16 事務局からのお知らせ |

令和4年度

評議員会開催

事業計画など原案どおり承認

令和4年6月24日(金)午後6時から札幌パークホテルにて令和4年度評議員会が開催された。

卒業期91名、地域・職域支部47名、計138名(委任状含む)と同窓会役員46名(委任状含む)が出席した。

関寛会長の開会宣言の後、コロナ禍ご参集頂いた事への謝意、続いて評議員会の成立確認に続き、議長



令和4年度 北海学園大学同窓会 評議員会

第1号議案

令和3年度事業報告並びに収支決算について、事業報告は大橋孝行事務局員より事業は新型コロナウイルスウィルス感染症による影響から中止・見送りを余儀なくされながらも、会務運営に必要な諸事業を細心の注意を払い行ったこと等を報告した。

収支決算報告は佐々木啓明事務局員より資料に基づき報告が行われ、当初予算と決算額の差異が大きい科目は、予算の編成が平時での事業執行を念頭に置いたものである旨説明があった。

第2号議案

監事代表、横谷貞夫監事より資料に基づいた報告が行われ、1号2号議案は原案どおり承認された。

第3号議案

令和4年度事業計画(案)並びに予算(案)について、事業計画では、新型コロナウイルス感染症の影響による事業の見直し、会員名簿作成積立の取止め、結成70周年にむけた検討の加速、森本正夫先生の顕彰事業などについて説明を行った。

令和4年度予算案は、予算編成、勘定科目、表示名称の整理を行い、平時で事業が概ね開催された場合を想定しての編成を行った。若い世代の卒業生の掘り起こしに対応すべく、ホームページの機能の充実及び開発及び会員管理システム予算を計上。同窓会70周年記念事業費の積み立てを令和6年度までの3年間行うことなどの説明を行い、第3号議案は、原案どおり承認された。

第4号議案

役員の選任について、関会長から、森本前会長の後任選出の過程で多くのご意見頂戴した事への謝辞を述べた後、会則では8名以内、現行4名の副会長をまずは2名の補充を行い6名体制としたい。副会長候補者として、日和哲志幹事

(経済・昭和49年卒)、小林米三郎(経済・昭和60年卒)両氏を、事務局長は、前任の高田事務局長が3月末で退任したため、会則第8条により評議員会で母校に在職する会員の中から選任するとなっているため、候補者として木村勝照さんを、また永年活動の中核を担っていたいただいた前事務局長高田哲也さんを参与に推薦したい旨発言があり、承認された。

第5号議案

懸案事項に係る検討委員会の設置について、関会長から森本前会長の40年以上にわたるご尽力を受けて、次への繋がりを模索した組織の在り方等について衆知を結果として展望を開きたいとの発言があり、会則第33条で委員会の設置が幹事会の議を経て認められていることを受けて、企画等の検討委員会(直近する70周年事業)、社会貢献・大学貢献について検討委員会(森本前会長顕彰事業)、会則について検討する委員会(役員定年制新規幹事)の立ち上げを正副会長会議、事務局会議等でまとめ上げたい旨提案を行い、原案どおり承認された。

第6号議案

同窓会奨学金について、木村事務局長から、この制度は、平成27年に始まり間もなく、候補者19名の推薦を受けて選考委員会に諮

る。支給額は一人年額12万円の19名分228万円。新型コロナウイルスによる経済的困窮学生救済のため、大学から要請があった場合は、別途対応する。現下の状況に鑑み選考は正副会長で行い、奨学生選考委員会並びに授与証受領式は中止する旨説明がされ、原案どおり承認された。

第7号議案

その他について、事務局が移転した事、事務局員の紹介があった。議長より、以上で予定された議題はすべて議了したことを告げたのち、議事の進行に対する協力により、責務を果すことができたことに対する謝辞を述べた。(評議員会資料は、14・15頁に掲載)

役員選任

副会長

日和 哲志 氏 (経済学部1部経営学科昭和49年卒業)

副会長

小林 米三郎 氏 (経済学部1部経営学科昭和60年卒業)

事務局長(幹事)

木村 勝照 氏 (経済学部1部経営学科昭和52年卒業)

(事務局長就任挨拶は、16頁に掲載)

輝く北のまち 紹介リレー



ひらとりちょう
14 平取町

～トマトの生産が全道一、アイヌ文化を次代につなぐ～

人口：4,645人
面積：743.09km²
(令和4年6月末現在)



遠藤 桂一 平取町長
(経済学部1部経済学科
第27期・昭和55年卒業)

平取町は日高振興局管内の西に位置し、札幌の中心部までは車で1時間30分、新千歳空港までは50分の距離にあります。総面積743.09km²、人口4,645人(令和4年6月末現在)の町です。町名の平取(ひらとり)はアイヌ語「ピラ・ウトル」(崖の間)を意味しています。

平取町はどんな町ですかと聞かれることがしばしばあり、短い説明でわが町を表現するのは至難の業なのですが、ワンフレーズでと言われれば、「トマトとアイヌ文化のまち」と答えるようにしています。

～全道一のトマトの産地を守る～

開町120年を超える歴史の中で、主たる産業は農業、林業の一次産業、昭和30年代まではクローム鉱山などもあり鉱業で栄えた時期もありました。農業は稲作と畜産が中心でしたが、昭和40年代の国の米の転作奨励によってトマトの生産が始まります。当初は数戸の農家から栽培が始まったトマト生産ですが、その後先人農家の努力と行政も栽培農家の経営安定を支援したことにより、現在では販売額も41億円、栽培農家も160戸を超え、全道一のトマトの産地となっています。しかし、人口の減少や高齢化により、後継者不足の課題が顕著になっています。新規就農者には、農地や第三者継承等による施設の斡旋、機械設備投資への手厚い補助、一人前と言われるようになるまでの熟練農家によるサポート体制など、持続可能な産地形成に向け努力しているところです。もし、農業への転職を考えているような方がおりましたら、当町でのトマト農家経営を是非、ご検討ください。

～アイヌ文化の振興と継承は自治体の責務～

また、当町は古くからアイヌの人々が多く住んでいた土地として、その文化も色濃く残る地域でもあります。明治開拓期以降の同化政策等によって継承が難しくなっていたアイヌ文化を、そのアイデンティティを守り、次の世代に継承することは自治体の責務であると捉え、アイヌの人々が伝統的な狩猟・採取等の場として利用してきた北海道由来の森林の再生をめざす「伝統的生活空間(イオル)再生事業」、アイヌの守り神でもあるシマフクロウ(コタンコロカムイ)が生息できる森をめざす「21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト」や「二風谷イタ(アイヌ文様を彫った木の盆)アットゥシ(オヒョウニレの繊維で作った織物)の伝統的工芸品の指定」、地域の

方々や子供を対象とする「アイヌ語教室・文化保存会」への支援、平取町のアイヌ文化の啓発、情報発信の核となる「町立アイヌ文化博物館」や「アイヌ工芸伝承館(ウレシバ)」の整備など、ハード、ソフト両面で、以前から積極的に多くの事業に取り組んできた経緯があります。また、若い世代がアイヌ文化に触れ、その価値観やこの国の文化の多様性などを認識してもらうことを目的に、全国の大学生・院生を対象に毎年2回、アイヌ文化を通じてまちづくりを考える「大地連携ワークショップ」も実施されています。すべてのものが神(カムイ)の化身であり、それを敬い恐れ、共生していくといったアイヌ文化の神髄に触れに、一度当町に足をお運びください。

～大切にしたい学生時代の記憶～

私は昭和55年、経済学部を卒業しました。水車町4丁目の3畳一間の下宿に4年間お世話になっています。ラグビー部に所属し毎日、清田にある大学のグラウンドに通っていました。授業そっこのけでクラブ活動に没頭していたように思います。余市町の嶋前町長はラグビー部の先輩でもあります。

私の大学での4年間は勉強やクラブ活動、多様な思考を持った人間との出会い、恋愛、就職活動、将来の身の振り方など、悩みや苦しみ喜びなどが交錯した、精神的にも何かと揺れ動く時期だったと振り返ることができていると思っています。

遠い記憶になっていく学生時代に、抱いた情熱や感性が今の自分を形成しているのではないかと思うことが時々あります。それは何か今では気恥ずかしく、青臭く不完全なものであり、思い出すと少し元気になるようなものでもあります。そんな学生時代の記憶をいつまでも持ち続けたいとも思っています。

～まちづくりは自治の確立と自己実現～

2020年7月に平取町長に当選しました。まちづくりの基本は自治の醸成と町民の自己実現にあると思っています。それをこの地域で実現させるための様々な仕組みや施策を展開させることがリーダーである私の責務だと思っています。

平成20年に平取町は自治基本条例を制定しました。私はその時、担当として策定に大きくかかわっていました。基本条例の柱は、住民参加と情報公開からなっています。これを省いて民主的な自治体の運営はあり得ないと思っています。

今後この基本的なルールを拠り所として、農林業をはじめとする一次産業の振興、アイヌ文化の継承、国立公園化が待たれる日高山脈襟裳国定公園を核とする観光産業の活性化、主に木質バイオマスを活用したゼロカーボン施策などにも新たな視点で取り組んでいきたいと考えています。



平取町立二風谷アイヌ文化博物館



平取町立二風谷アイヌ文化博物館(展示室)



ひらとりトマト・トマトジュース「ニシバの恋人」



研究室のいま

工学部建築学科教授

岡本 浩一

一担当科目

都市計画 空間デザイン演習基礎 他

OKAMOTO Koichi

- 経歴 1976年恵庭市生まれ。北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士課程修了。博士(工学)。技術士(都市及び地方計画)。2003年ホルス入社。2007年本学着任。
- 所属学会 日本建築学会、日本マンション学会、都市環境デザイン会議
- 社会活動 札幌市都市計画審議会委員、札幌市都市景観審議会委員、北海道建築設計者選定委員会委員、恵庭市水と緑のまちづくり審議会委員、北海道まちづくり協議会副会長等
- 研究業績 戸建住宅地における家庭ごみ集積所の実態と利用者の評価 日本建築学会計画系論文集 第81巻第722号 pp.1019-1028、2016年

工学部建築学科の紹介

建築学が対象とする学問領域は、工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ、個々の人間の感性と倫理観も重要視され、専門性と総合性がともに求められます。当学科では、空間・環境・システムのそれぞれをデザインする能力の習得と、それらを活かし創造を実現する優れた人間性の醸成を目標にしています。専門教育科目担当8名、一般教育科目担当3名の計11名に加え、実務経験豊かな多くの非常勤講師が学びと成長を支えています。当学科卒業生は昭和47年の1期生から数えて5千名に迫り多方面で活躍しています。

ひとの存在とときの流れ

私は大学・大学院で住環境計画学講座に所属し、人々の住要求や居住実感、豊かな暮らしのあり方などに関心を寄せる研究に取り組みました。博士号取得後は、都市計画と建築設計との両方を手がける小さな事務所に勤め、住宅の基本設計、住環境整備、公営住宅ストック活用、都市再開発事業等に携わりました。そのため私の根底には、住環境のあり方やまちづくりへの意識が残り続けています。

都市計画は、ビジョン(あるべき都市像)を実現するため、ルール(規制・誘導)を設定します。土地利用や建築形態といったカタチあるものを「望ましいあり方」にすべく策を講じる仕立てと言えます。一方まちづくりは、ビジョンの実現に向け、プロセス(工程)を構築し、適切にマネジメント(管理・活用)することが重要と実務者の間で言われています。ここには、都市計画では見えにくい「ひとの存在」と「ときの流れ」に対する意識が垣間見え、つよい共感を憶えます。

竣工は産声

建築は「竣工=完成」と見られがちですが、私は「竣工=産声」と捉えています。人々に愛され大切に利用される間を「建築」と考えます。都市計画のルール等々に従って出現する建築は、その地で数十年~百年存在するのですから、人々に愛され大切にされ続ける存在を目指すべきでしょう。

産声をあげたあとが重要です。住み手や利用者により豊かな時を感じてもらいながら、まちの要素としても愛されつつ成熟していく、最後は惜しまれつつ姿を消し、その地でまた新たな産声があがる。このような循環は、豊かに住みよいまちであり続けるため欠かせません。「ひとの存在」と「ときの流れ」から目を背けて、建物単体や敷地内で収斂するデザインに満

足したり、施主の目線に囚われ過ぎると、建物単体は魅力的でも、まちの住みよさは遠のいてしまいます。

2度目の産声 | 空き家リノベーション

総務省統計局が人口減少局面を示唆したのは2005年国勢調査の速報人口に遡ります。約10年後2015年2月に空き家対策特別措置法施行、同年6月野村総研は2033年に10軒中3軒が空き家になると予測し大きく報道されました。空き家特措法は一定の効果を示し、直近では予測を下回る集計結果が公表されています。自治体が空き家・空き地バンク制度を実現したり、商店街が空き家/空き店舗の活用に取り出したり、官民とも対策に取り組む様子があります。また、建築資材や人件費等の高騰から中古物件のリノベーションや、民間による空き家等の仲介も盛んになっています。

私の研究室では2017年度から北空知の沼田町で学生主体の空き家リノベーション活動を始めました。翌2018年度に北海学園大学と沼田町とが包括連携協定を締結し、つよい繋がりで活動を継続中です。計画提案から施工までを学生らが実践し、2021年度までに3軒の空き家と石狩沼田駅駅舎とが2度目の産声をあげました。まちづくりに貢献し大切に利用される様子が聞こえてきます。空き家のリノベーションは地域課題の解決を先送りし、根本的な解決に至らないとの声もあります。しかし利便性の高い好立地な物件なら、周囲に危険を及ぼす特定空き家への変貌を待たず、まちづくりに貢献する2度目の産声に一定の意義があると考えます。

この活動は、行政や民間が知恵を絞る多様な空き家対策の一面であり、建築を学ぶ学生にとっては知識を実体験として吸収する場、地方小都市の地域文化に触れる貴重な機会でもあります。地域と学生との両者に意味のある2度目の産声を聞き続けられるよう取り組んでいきたいと思えます。



2022年度空き家リノベーション活動1巡目に参加した学生・卒業生の面々

同窓生企業ファイル②

パイオニアスピリットあふれる経営マインドを探る

株式会社 HBN 代表取締役社長

廣崎 匡 氏

Hirosaki Tadasu

法学部 1 部法律学科 第 19 期・昭和 60 年卒業



プロフィール

小樽市出身。大学卒業後、人材コンサルティング会社のジェイ・ブロードに入社。ジェイ・ブロード時代は 28 歳で北海道支社長、32 歳で取締役として会社事典を始めとする数多くの新規事業を立ち上げ成功に導く。平成 15 年、株式会社ジェイ・ブロードを退社。同年、有限会社エイチ・ピー・エヌを設立。長年培った経験を活かし、数多くの斬新かつ画期的な商品開発に取り組む。代表的な商品は「就活 LIVE」「北海道求人票 NAVI」「採用管理システム」そして、昨年「ジョブキャリア北海道」など常に、時代に先駆けた商品を開発している。

本社：札幌市北区北 7 条西 5 丁目 7-1 第 27 ビック札幌北スカイビル 9 階 電話：011-374-6699
ホームページ：https://www.hbn.co.jp

北海道の企業と北海道で働きたい就活生を繋ぐ

就職活動のスタートは公務員を希望していました

大学卒業後に就職したのは、ジェイ・ブロードという新卒のコンサルティング会社です。大学での就職活動は当初、公務員を中心に考えていたのですが、学生時代はほとんど勉強をしていなかったの、受かるわけもなく(笑)。公務員になろうと思った動機も親が公務員、兄も教員だったので、自分もなんとなく「公務員がいいなあ…」位のイメージでしかありませんでした。そんな時に、私と幼稚園から大学まで一緒だった友人から「お前は公務員より、民間の方があつてるんじゃない? 話もうまいし…」と言われ、全く民間企業も知らずに就活を終えるのもどうなんだろう? と思い、かなり遅くから就職活動をスタートしました。それからは色々な企業の話聞いて「民間企業も面白いかも??」と考え始めた時に、偶然に行ったジェイ・ブロードの説明会で、初めて「こんな仕事があるんだ」「この仕事ができるなら、全国どこに行ってもいい!」「ここで働きたい!」と思うようになり、なんとか、無事に内定をいただき働くことになりました。

ジェイ・ブロードでの仕事が現在の自分を作る

ジェイ・ブロードでは、北海道支社設立のための人員募集だったため、そのまま北海道支社の営業として配属になりました。新人の頃は、毎日アポ取り、アポが取れると訪問、提案(企画書作り)、見積りの繰り返しでした。アポはかなり断られましたね(笑)。結構、メンタルやられそうになることも…。でも、アポが取れると物凄くちゃんと話を聞いてくれる。時には、企業の社長であることもありました。それだけ「人材」の仕事は需要が高く、企業の中では、非常に重要な仕事であると実感しました。

1 年目 800 万円。2 年目 2400 万円。3 年目 9500 万円。4 年目 1 億円を超える実績を積み上げ、事務所も時計台ビルに移転し、入社 5 年目で北海道支社長になり、その後も「会社事典」という画期的な商品を自らの手で開発し、それが、全国展開できる商品となり 32 歳の時に役員に抜擢されました。

このようなことを書くと、なんだか順風満帆のように思えるかもしれませんが、実は役員になった時は、会社は債務超過で瀕死の状態でした。

私が入社した直後位から日本はバブル景気で物凄い状態でした。たぶん、誰もがこの日本経済の成長はこのまま続くのではないかと思っていたと思います。でも、そうではなかった…。バブルが弾けて、私の会社も大変な状態となり、東京

の一等地にあった事務所を移転したり、仙台や福岡の支店を閉鎖したりという大変な状況に陥り、その当時の社長から「なんとか、会社を助けてほしい…」と頭を下げられ、半分しょうがなく役員になったというのが実際の話なのです。

しかし、なった以上は全力でやり抜くと心に決め、寝る暇を惜しんで頑張りぬきました。ある年は北海道支社と大阪支社、名古屋支社の担当役員や営業本部長などを兼務し、気がつく総務・経理以外の全ての役員を経験していたので、物凄く成長したと思いますが、自宅のある札幌には週の半分もないことが大半だったと思います。

役員となって 8 年目に、やっと株主に配当ができる会社に戻し、ここでの自分の仕事は終わったと思い、ジェイ・ブロードを退職する決意をしたのが 41 歳の時でした。

HBN を起業し、今年で 20 年目を迎える

退職後、現在の HBN という会社を起業し、同じような人材の仕事をしています。当初は、会社を大きくしようという野心は全くありませんでした。「自分たちの生活に困らない程度の稼ぎがあれば良い」と思っていたのですが、設立後、色々な方々からのご支援やお力添えをいただき、少しずつ会社は成長し、現在は取引先 500 社以上。売上 2 億 5000 万円。社員数も 12 名になりました。そして、今年ちょうど 20 年を迎えたことから有限会社から株式会社へ社号を変え、第二創業期としてスタートしています。益々、会社としての責任も大きくなってきたように思います。

去年は、大きな挑戦として自社独自の就職サイト「ジョブキャリア北海道」という北海道で働きたい就活生と北海道の企業を繋ぐ、北海道に特化したサイトを立ち上げました。大手情報サイトとは一線を画したユニークなサイトです。是非、一度ご覧になっていただければと思います。今後も私たちは、北海道の企業と北海道で働きたい就活生を繋ぐ掛橋として、貢献して行きたいと思っています。



——在学時の思い出や起業するまでの経緯をお話し頂けますか

東月寒中学校を卒業後、北海道札幌啓成高校に入学しました。高校入学当初は、両親から買ってもらった30万円もしたパソコンを、最初はあまり触ることもなく、放置していましたが、ちょうどWindows 98が発売された頃で普及してきたインターネットに繋いでからは、もうずっとパソコンに触っていました。パソコンの組み立ても好きで、メモリを増やしたり、ビデオカードを変えたりと買ってもらったパソコンを少しずつカスタマイズして、オリジナルのパソコンを作っていました。

理系を選択していた高校3年生の夏までは、工学・情報系の大学に進むのかなと私自身も思っていました。が、突然、『経済』に興味関心を持ち始め、毎日欠かさず新聞を読み、ニュース番組を観て過ごしていくうちに、経済学部を受験したいと思いはじめました。経済学部であれば、株式会社ニトリ

Hokkai-Gakuen OB

OBの本棚

株式会社インセンブル 代表取締役
濱内 勇一 氏

経済学部 2部経済学科
第49期・平成17年卒業

—プロフィール—

1982年 札幌市生まれ。2005年 北海学園大学経済学部経済学科卒業、北海道スバル株式会社にて営業職として入社。その後、上京してIT業界に転職し、証券システム、WEB系システム開発を担うSEとして活躍。2013年に帰札し、翌年、株式会社インセンブルを設立、代表取締役に就任。2022年経営管理修士(MBA)取得。2014年から現職。



の似島会長を輩出した北海学園大学の経済学部を、ぜひ、受験したいと思うようになりました。

入学後は真面目に講義に出席し、板書をとっていました。なにしろ、『経済』に目覚めていいますから、講義に対しては非常に真面目でした！

講義以外は、競馬に熱中し、学生時代の余剰時間は、全てそれに費やしていました。私なりの競馬の楽しみ方は、賭け事というより、データをみて研究対象として分析し、誰も気づかない馬を見つけることが好きでした。映像や位置取りをみて、「この馬は、注目はされていないけれど、不利が無かったら上位に食い込んでいたな」、「コース適性が合っているな」などと地道に分析をしていました。一度、100円が、6万馬券になったことがあり、誰も並ばない換金所に颯爽と換金しに行くことができた時は、快感でした(笑)。

もうひとつ、学生時代のエピソードとしては、大学3年生の頃に、プログラミング

を学ぼうと思いい、プログラミング入門書を買って、独学し始めたのですが、初めからかなり難しく、何の成果もありません。止めてしまいました。当時は、「プログラミングなんて、とてもできるものではない！ 難しい！」と思っていましたが、まさかそれを仕事にするとは夢にも思っていませんでした。

大学卒業後は、北海道スバル株式会社白石店に営業職で入社しました。あの頃の株式会社SUBARU、当時は、富士重工業株式会社でしたが、レガシイブームが去つて、とにかく、車が売れない。営業職に就いては厳しい時代でした。先輩や上司が、夜遅くまで私に付き合ってくれて、いろいろと教えて頂いたのですが、それでも思うように売れず、結果が出ないまま、2年4か月で退職しました。25歳のことです。

退職後は、しばらく会えていなかった友人たちと会う機会を作りました。そんな折ある一人の友人に「今、どんな仕事をしているの？」と尋ねると、「システムエンジニアをしている。最近は、プロジェクトリーダーを任されている。」と言った言葉が返ってきた。チームで協同作業をするのに憧れを抱きました。学生時代にプログラミングで挫折をしていたのですが、そんなことは、すっかり忘れ、システムエンジニアの仕事をしてみたいと思うようになり、札幌でIT業界を中心とした職を探しましたが、札幌では希望の仕事が見つからず、東京へ行くことにしました。東京に行った途端、3社から内定を頂いて、念願のシステムエンジニアの職に就くことができました。それから、人生は、怒涛の日々で、まさしく、人生を一変させた出来事になりました。

初めは700人程が在籍していた大きなシステム開発会社で働き、忙しいながらも充実した日々を送っていたのですが、就職した翌年、2008年にリーマンショックが

起こりました。それは、もう凄くて、システム開発は、どんどん止まっていき、現場が終了する。現場を上がつて、仕事が無い人たちが会社に溢れるようになる、とにかく現場が無い人たちは、リストラされていきました。どんなに高いポジションの人でもです。

幸いにも現場があった私は、証券システム開発の仕事を受け、社内外で評価をされるようになりました。その頃には、私自身もこの仕事に面白みを感じていましたが、大変古いシステムを使っていたので、もう少しモダンなシステム開発に携わりたくなくなり、3年間働いたシステム開発会社を退職しました。

その後は、WEBシステム会社に転職し、またいから学び直しました。物凄くハードでしたが、その時の経験があったので、今、独立できていると思います。1社目でシステム開発の基本的なプロセスを学び、モダンな開発の手法や進め方を2社目で身につけることができました。貴重な経験をしました。

上京から6年後、WEBシステム会社を半辞めずに札幌へ戻り、リモートワークを半





年ほど続けた後、32歳で起業しました。実は私、起業する気は、全く無かったのですが、東京で働いていた時に、システム開発の副業を始め、納めたお客さんから大きな仕事の機会を頂き、会社を辞めて、専念して開発することになったというのが、起業するきっかけでした。

—影響を受けた本を三冊ご紹介いただけますか

ビジネス本やスキルアップに役立つ本を読むことが学生時代から好きで、今でもそ

のような本をたくさん読んでいます。

「The Goal」企業の究極の目的とは何か

エリヤフ・ゴールドラット著
三本木亮訳、ダイヤモンド社

物事の進め方の視点が変わった

大学2年生の頃と東京で働いていた頃の2回読みました。アメリカで1984年に出版されたビジネス小説で、当時、ようやく日本で翻訳され、出版されていました。部分最適の改善にかけては、世界でも優秀な日本人に全体最適化の手法を教える、再び世界経済を席卷してしまう恐れがあるとして、長い間、出版を禁じられていたという本です。

東京時代に改めて、この本を読んだ時に、物事の進め方の視点が、部分最適ばかりになっていると気がつき、視野を広く持たなければならぬ、全体としてはどうなのかと意識的に思考を切り替えることができるようになりました。学生時代に一度読んで影響を受けつつ、また、時を経て10年後に読み、仕事に活かすことができました。まさしく廃れることのない名著だと思います。

「応用情報技術者 合格教本」

大滝みや子、岡嶋裕史著、技術評論社

私にとつての「武器」です！

※写真は現行の最新（令和4年）版です

システム開発会社に勤めている27歳の頃に読みました。読んだというよりこの本を使って勉強をしました。私は、受験勉強をあまり熱心にしてこなかったのですが、その時、人生で初めて真剣に勉強したと自分で思えるくらいに頑張りました。初級システムア

ドミニストレーターに始まり、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験に合格。今でも、その勉強がすごく役立っています。

この本でコンピュータシステムを作るうえでの基礎理論やアルゴリズム、プログラミング言語、情報システムに関してのデータベースやネットワークセキュリティなどを体系的に学びました。本来、システム開発の実務だけでは、OSやハードウェアなどを幅広く学ぶ機会は、ほとんど無いのですが、広い知識があることで、緊急時に「何がおかしいのだろうか?」と創造力を発揮することができるようです。

この国家試験に合格するために真剣に勉強をしたおかげで、今、顧客にいろいろなことを幅広く提案をし、サービスを提供することができるようになっています。

「グロービス MBAマーケティング」

グロービス経営大学院著、ダイヤモンド社

ビジネススクールに通って、本当に良かった

基礎から応用までを体系的に学んでいくことができる面白さがこの本にはありました。また、改めて理論をしつかり学ぶことの大切さを、この本を読んだ37歳の頃に感じました。IT分野だけではなく、マーケティング分野も加速度的に進歩をしているので、この本を読み終えた後に、「ビジネススクールに通って、マーケティングや経営戦略を学び直したい!」と思い、小樽商科大学ビジネススクール（小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻（MBA 経営管理修士）の門をくぐりました。

しかし、ただでさえ仕事で時間が無い中、講義の時間も割かなければならないのが、本当に大変でした。それに加えて、レポート

や宿題をする時間も必要で、学んでいた2年の間に何度となく徹夜もしました。とても大変な2年間でしたが、一度社会に出た後で学び直すことは、非常に価値があると思っています。ひとつは、一緒に学ぶ仲間ができること、もう一つは、社会人経験を経てからの学びは、ビジネスに直結するということ。

—最後に若い世代に向けてのルールを

学び直しと人との繋がりを大切にしたいと思います。

学び直す場所が、小樽商科大学ビジネススクールではなくても北海学園大学大学院やどこかのeラーニングでも良いと思います。ご自身が会社を営んでいる方、新規事業を立ち上げるような機会のあるお勤めの方、あるいはこれから起業したい方は、マーケティングや経営戦略などを体系的に学ぶことで、新しいビジネスをロジカルに創造する手法やプロセスを学ぶことができると思います。

また、積極的に外に出て、いろいろな人と繋がりを持てることが大事かなと思います。普段、出会わないような人たちと出会える場に行つてつながる。例えば、北海学園大学のOBの集まりは、すごく幅が広がって、安心できる人たちに会えるので、ぜひ、つながりを求めて参加してほしいです。私もOB異業種ネットワークの会でお会いした先輩をスカウトして、今、弊社で働いてもらっているという経験をしました!

人とながつて巻き込まれたら、自分のルールから少し外れたチャレンジを、勇気を出してやってみる。そうすると、ふと気がついた時、人生、想像もしていなかった面白いことが起こるかもしれないと思っています。

〈インタビュー〉 澁谷政憲（経済学部1部 経営学科第26期・平成6年卒業）

同窓生のお店探訪

Vol.
03

齊藤印房

札幌市中央区南2条西1丁目13番地 電話 011-241-8698

齊藤 岩男さん 経済学部1部経済学科 第4期・昭和32年卒業

明治末頃、富山から移住した祖父が日用雑貨屋を創業。その後、父が丁稚奉公に出て、印鑑職人として2代目を継ぎました。

大学卒業後、間もなく父親が他界し、学校の教師志望を諦めて父の印判の技を継ぐ時間も店頭に立つ事になりました。7人兄弟の長男で、みんな小さかったので、ためらいはありませんでした。

札幌市中央区の中心を東西に伸びる狸小路商店街。その1丁目に店を構えて100年以上が経っています。昭和の初め頃は、1丁目界隈だけでも6軒のはんこ屋がありました。当時より印鑑は手彫りで、独特の味わいを醸し出しています。店内には約1万5千本の印鑑が、壁一面の木製ケースにびっしりと並んでいます。

営業時間 月～金曜日：午前9時～午後7時
土～日曜日：午前10時～午後6時
定休日：元日のみ



親子 de 学園

親子二世代で
北海学園大学を卒業した
OB・OGを紹介



榊原 雅幸さん

法学部1部法律学科 第27期・平成5年卒業

私は平成5年に卒業しました。学生時代に車で色々なところに行き、旅行に興味を持ち旅行会社に就職をしました。営業を主体に活動をしてきて30年程経ちますが、北海学園大学のOBの方々からのご紹介でお仕事をいただくことが多々ありました。

その度に北海学園大学の絆の強さというものにOBとしての誇りと感謝を感じております。

また、その間に自分の娘も同じ法学部を昨年卒業し、息子も現在、在学中です。

子供達の大学生活を見ていると、コロナの影響もありなかなか十分なキャンパスライフを過ごせていないところはありますが、遠隔授業など、私たちの学生時代では想像もつかない方法で授業を受けられる環境になっていることに時代の変化を感じております。

子供たちもこれから社会に出て様々な経験をしていくと思いますが、北海学園大学の絆を実感できるように今度はサポートしていきたいと思っております。



支部だより(支部総会写真)

2022(令和4)年4月以降実施分

北翔会 (6.17)



6月17日(金)18時30分から、札幌ガーデンパレスホテルで開催いたしました。総会では役員継続に関する審議が行われ、令和4年度も同じ役員で運営することになりました。総会終了後の合格祝賀会では、北海学園大学工学部名誉教授の当麻庄司先生の祝辞、豊平会副会長の宮本雅次殿から来賓挨拶をいただき、湯口雄司前北社会会長の祝杯で合格祝賀会が始まりました。しばらく歓談の後、ビンゴゲームを行い、会員相互の親睦を深め、その後、大谷新会長の挨拶、新合格者6名からのスピーチがあり、最後は日本技術士会北海道本部特別顧問の斎藤有司殿の祝杯でお開きとなりました。来年は6月16日(金)に開催予定です。

応援団 OB 尚志会 (7.2)

コロナ禍の中、応援団を続けてくれていた第66代団長 葛西俊介君、副団長 佐藤圭祐君が卒業・就職しました。応援団廃部の危機でありましたが、昨年10月から大太鼓の鼓手として手伝いに来てくれていた新田航平君がOB会の要請で残ってくれ、第67代団長に就任して応援団は継続となりました。本年度もコロナの状況で先が見えないですが、せつかく再興した応援団を継続させるために、何とか新入団員を獲得して応援団を継続していきたいと思ひます。OB尚志会としても残ってくれた新田団長と密に連絡を取り、支援活動をしていきたいと思ひますので諸先輩方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。 押忍



自衛隊支部 (7.9)



初夏の風薫る7月9日(土)18時からホテルライフオーツ札幌にて開催しました。今回は参加者が9名と少なかつたですが、コロナ禍で3年ぶりの開催で皆さん久しぶりの再会となり、会話が済み懇親会の2時間がすぐに終了してしまいました。

これからもかつての懐かしい仲間たちの輪を広げて更に新たな絆を深めて参ります。新規会員になっていただける自衛隊OBの同窓の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

是非、ご参加ください!

連絡先: 自衛隊支部事務局 浅田

TEL: 090-8274-0745 FAX: 011-583-4321

| | |
|------------|-----------|
| 山岳部 OB 会総会 | 書面開催 (4月) |
| 帯広信用金庫支部総会 | 書面開催 (5月) |
| 北海学園大学支部総会 | 書面開催 (5月) |
| 蝸牛会総会 | 書面開催 (7月) |

支部活動並びに支部総会につきまして、感染防止対策を徹底した上で実施していただきますよう、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

◆支部長交代

経三期会 2022(令和4)年7月14日付(評議員兼務)

宮崎 文彦氏 ⇒ 土井 二郎氏(経済学部1部経済学科 第3期・昭和31年卒業)

蝸牛会 2022(令和4)年8月1日付

木津谷 士朗氏 ⇒ 渡邊 高彦氏(経済学部1部経済学科 第13期・昭和41年卒業)

◆評議員交代

蝸牛会 2022(令和4)年8月1日付

木津谷 士朗氏 ⇒ 梅本 成利氏(経済学部1部経済学科 第29期・昭和57年卒業)

OPEN SPACE

オープンスペース

2022(令和4)年度北海学園大学同窓会第1種奨学金の給付

北海学園大学同窓会第1種奨学金の給付学生が決定しました。2014(平成27)年度よりはじまり今年で9年目となる同窓会奨学金は、年額12万円を各学科1名計19名に給付しています。7月に認定証授与式を予定しておりましたが新型コロナウイルスの感染が急速に拡大している状況を鑑み中止といたしました。

第1種奨学金給付学生 (19名)

| | | |
|--------------|----|-------|
| 経済学部1部経済学科 | 2年 | 中公 太一 |
| 経済学部1部地域経済学科 | 3年 | 河村 美空 |
| 経済学部2部経済学科 | 2年 | 水柿 葵 |
| 経済学部2部地域経済学科 | 3年 | 太田 陸也 |
| 経営学部1部経営学科 | 4年 | 寶嶋 響子 |
| 経営学部1部経営情報学科 | 2年 | 石塚 七菜 |
| 経営学部2部経営学科 | 2年 | 横田 修平 |
| 法学部1部法律学科 | 4年 | 佐々木真弥 |
| 法学部1部政治学科 | 4年 | 武田 朋也 |
| 法学部2部法律学科 | 4年 | 福島 龍誠 |

| | | |
|--------------|----|-------|
| 法学部2部政治学科 | 4年 | 長嶺 尚征 |
| 人文学部1部日本文化学科 | 4年 | 高野 風音 |
| 人文学部1部英米文化学科 | 4年 | 鎌田 優月 |
| 人文学部2部日本文化学科 | 4年 | 鈴木 茉穂 |
| 人文学部2部英米文化学科 | 4年 | 吉川 真生 |
| 工学部社会環境工学科 | 2年 | 熊澤 拓己 |
| 工学部建築学科 | 4年 | 渡邊 智帆 |
| 工学部電子情報工学科 | 3年 | 橋向 隼平 |
| 工学部生命工学科 | 2年 | 大井 幹那 |

コロナ禍に伴う同窓会特別奨学金の給付について

2020(令和2)年度よりコロナ禍で経済的に就学が困難になった学生へ同窓会特別奨学金の給付を行っております。今年度も大学より支援要請がありましたので、6万円を82名に総額492万円の支援給付を決定しました。

第68回対東北学院大学総合定期戦

第68回対東北学院大学総合定期戦が2022年6月17日(金)～19日(日)仙台で開催されました。新型コロナウイルス感染拡大で昨年、一昨年は中止となっていたため3年振りの開催となりました。

気になる総合成績の結果は5勝12敗1分けて東北学院大学が総合優勝を収めました。来年は札幌で開催予定です。来年こそは大学の初優勝に期待したいですね。



卒業アルバム頒布販売のお知らせ

同窓生の皆様で卒業アルバムをお持ちでない方のために、在庫のバックナンバー(1988年～2021年)と今年の卒業アルバムを頒布販売いたします。

ご希望の方は下記の制作担当、株式会社ラボットまでお問い合わせください。在庫僅少の年度もありますので、ご希望に添えない場合はご容赦ください。

価格 14,000円～18,000円

◇株式会社ラボット 北海学園大学アルバム係

TEL.FAX. 011-815-5307 メールアドレス hgu_album@labbott.co.jp



第167回直木賞に河崎秋子さんの作品がノミネート

河崎秋子さんの小説『絞め殺しの樹』（小学館）が第167回直木賞にノミネートされました。河崎秋子さんは本学経済学部経済学科を平成14年に卒業後、ニュージーランドや道内で綿羊生産を学び、別海町の実家で酪農業の手伝いと羊飼いをしながら小説を執筆。2012年「東甌遺事」で北海道新聞文学賞を受賞、2014年『颯風の王』（KADOKAWA）で三浦綾子文学賞を受賞しデビューしました。この作品は2016年JRA賞馬事文化賞も受賞しています。2019年は、『肉弾』（角川文庫）で大藪春彦賞を受賞、同年12月には、15年続けた羊飼いをやめて、十勝管内に移り住み文筆活動に専念されています。翌年2020年は、『土に贖う』（集英社）で新田次郎賞を受賞。デビュー後も続けて評価され、昨年12月に刊行された『絞め殺しの樹』が直木賞候補となりました。今回は惜しくも受賞とはなりませんでしたが、河崎さんの今後ますますのご活躍を応援しております。

『豊平会報』第85号に河崎秋子さん特別寄稿「作家は（ほどほど）つらいよ」が掲載されています。同窓会ホームページ（<http://www.hgu-dousoukai.org/bulletin/>）からご覧になれます。

「本学附属図書館」からのお知らせ

図書館2階に「北海学園大学出身の作家コーナー」を常設、100冊以上の図書が並んでいます。3階には「直木賞・芥川賞作品コーナー」も展開、ノミネート作品も扱っています。くわしくは、図書館ホームページ（<https://library.hgu.jp/>）をご覧ください。本学卒業生・修了生の方へのご利用についてもご案内しております。



本学出身作家コーナー

第31回YOSAKOIソーラン祭り優秀賞受賞 粋～IKI～北海学園大学

初夏の札幌を彩る風物詩、第31回YOSAKOIソーラン祭りが6月8日～12日に開催されました。新型コロナウイルスの影響で昨年、一昨年と2年連続中止となっていましたが、今年はパレードのコースを縮小し、参加チーム、観覧者ともマスク着用、また、声援は避けて、応援は拍手、手拍子と例年とは異なるルールで感染対策を徹底した中で行われました。

チームを結成して今年で26年目の本学「粋～IKI～北海学園大学」チームは23回目の出場となる今回、チーム名が入ったマスクを着用して華麗な演舞を披露。見事ファイナル審査へ進出し、優秀賞を受賞しました。



第26回参議院議員選挙当選（2022年7月10日投開票）

船橋利実氏（工学部土木工学科 第12期・昭和58年卒業）が初当選しました。

船橋氏は2012年衆議院議員に初当選、2017年2期目、2020年から2021年まで財務大臣政務官を務めました。

『豊平会報』がお手元に届くまでをご紹介します

『豊平会報』は年2回(3月・9月)発行しています。第89号はいかがでしたでしょうか。今号は、6月に開催された「会報部会」にて掲載内容が決定し、卒業生、現役学生、教職員の方々に取材や寄稿にご協力をいただきまして8月下旬に印刷、完成しました。封入と宛名ラベル貼付作業は、豊平郵便局のご紹介により、2014年から社会福祉法人HOP「豊平MAX」に委託しています。すべて手作業のため約15名で2週間ほどかかります。いつも作業に従事して下さるメンバーの中で一番若い方は、「作業は楽しく、やりがいを感じます」とお話ししてくれました。

社会福祉法人HOP 豊平MAX
〒062-0008 札幌市豊平区美園8条1丁目3-23



いつも作業を担当して下さるお二人

第1回「会報部会」を開催しました



オンラインも併用した「会報部会」の様子

6月8日(水)18時より2022(令和4)年度第1回「会報部会」が開催されました。

『豊平会報』第89号の掲載内容についての意見交換、また、今後の課題、改善点なども話し合わせ、予定していた時間があっという間に過ぎました。

部会長：大澤定雄(昭45経)
(副会長)

委員：村口康博(昭51法)、成田真利子(昭58法)、米田由美子(平2経)、
(幹事) 長谷川裕詞(平5法)、濫谷政憲(平6経)、藤原佳世(平6経)、
吉野圭子(平9経)、馬場康広(平12日)、船本弘美(平17法)

協力：佐々木郁夫(株式会社ラボット)

編集責任者：木村勝照(昭52経)
(事務局長)

事務局：大橋孝行(平3経)、佐々木啓明(平3建)

同窓会事務局移転のお知らせ

同窓会事務局は、大学豊平校舎6号館1階に移転しました。
地下鉄東豊線の学園前駅3番出入口直結です。

【所在地】

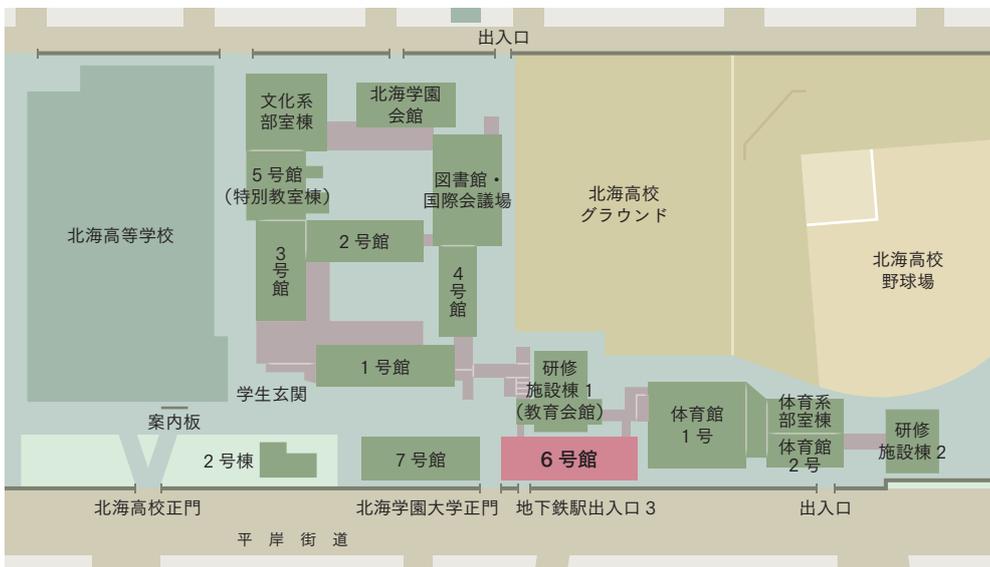
札幌市豊平区旭町4丁目1-40 北海学園大学6号館1階
電話 011-841-1161(内線1148・1168) FAX 011-816-1001
※電話・FAX番号に変更はありません。



6号館1階入口



北海学園大学同窓会事務局入口



クラブ・サークル活動通信

卒業生、サークルOB・OGの皆さん、
応援よろしくお願ひします！

【硬式庭球部】 主将 坂尻 若菜 経営学部経営学科 3年



硬式庭球部は現在4年生8人、3年生3人、2年生3人、1年生8人の男女合わせて計22人で活動しています。最近の大会成績としましては、個人戦では5名の全国大会出場決定、団体戦では男子1部リーグ3位、女子1部リーグ優勝で3連覇を果たし女子団体の全国大会出場決定という結果になり、練習の成果や新たな課題が見られました。次の大会に向けて一人一人が課題を乗り越え、大会で良い結果を残せるよう日々練習に励んでおります。

また、硬式庭球部は高校から始めた人もいれば、小さいころから始めた人もおり、様々な部員が協力してお互いを高め

あい、周りの方々に支えられながら、日々成長できるよう全力を尽くしております。

新型コロナウイルスによる影響は、現在も続いておりますが、少しずつ大会を行うことができ、以前のように大会という明確な目標に向かって努力することができ嬉しく思っています。これからも一人一人が目標を達成できるよう、部員一同精進いたしますので、応援のほどよろしくお願ひいたします。



【I部十月祭実行委員会】 委員長 橋場 拓樹 法学部法律学科 4年

I部十月祭実行委員会は今年で71代目になりました。十月祭実行委員会は企画部、総務部、財務部、広報部、渉外部の五部署に分かれて活動をしています。今年は例年の倍以上の入部希望があり、全体の部員数は200名を超えました。部員数が増えたことで各部署の活動の幅がかなり広がり、十月祭をより充実したものにできると確信しています。去年は対面で実施できず、ミスコンや著名人をお呼びしてのライブなどは動画配信サイトを通じてオンライン配信をしました。しかし、部員一同2年ぶりに開催できたことに大きな喜びを感じました。

今年はコロナ以前の十月祭よりは規模を縮小してとはなりますが、対面での開催を目標に準備を進めています。お盆明けにはステージの備品づくりや企画の打ち合わせが始まり、本祭に向けて活動も活発化していきます。新型コロナウイルスの再流行が懸念されている中ではありますが、大学が提示する感染対策のガイドラインと独自で作成した活動マニュアルを遵守しながら本祭を成功させたいと思います。新型コロナウイルスの終息を願ひながら、少しずつ以前の十月祭に戻せるように努めていきますので、今後ともよろしくお願ひします。



令和4年度 事業計画

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

北海学園大学同窓会は、会則第2条に掲げる目的達成のため以下の事業を行う。

I. 一般事業

1. 会報の発行

豊平会報第89号・第90号を発行し、会員に送付する。また、予備会員である在学生にも配布する。

2. 支部等との連携強化と育成

地域支部・職域支部・同期会・クラブOB会などと連携を深め、支部活動や同期会・OB会活動を活性化するとともに、要請がある場合は「個人情報保護法」に基づき利用目的を明示したうえで会員の住所等の提供をおこない、支部支援を図る。また、支部の活動活性化のために助成をする。

3. 新会員名簿の作成

令和4年度新会員(令和4年9月・令和5年3月卒業)名簿を作成する。名簿は事務局管理用として作成する。

4. 卒業祝賀会・新会員入会歓迎会の開催

令和4年度卒業祝賀会・新会員入会歓迎会を、大学院・大学の卒業証書・学位記授与式(3月21日(火・祝))終了後、大学・学生自治会と共催で開催を予定するが、実施の可否については大学と協議して慎重に進める。

5. ホームカミングデーの開催

同窓会・大学共催による第13回ホームカミングデーは見送る。

6. 全国支部長会議の開催

総会に集う全国の支部長より支部活動報告・意見交換を、10月22日(土)開催する。

7. 総会・懇親会の開催

本年度総会担当の世話人は、下段枠内の期・団体のご協力を予定していたが、新型コロナ感染症の感染拡大防止を念頭に従来形式での開催を見直し中である。開催方法は社会情勢を考慮して、会場・会員の意見を参考に決定する。開催は10月22日(土)を予定している。

経済学部1部経済学科53期(平成18年卒)同経営学科39期(平成19年卒)・経済学部2部経済学科40期(平成8年卒)同経営学科28期(平成8年卒)・法学部1部35期(平成13年卒)同2部35期(平成13年卒)・工学部社会環境工学科1期(平成18年卒)・建築学科35期(平成18年卒)・電子情報工学科24期(平成26年卒)・人文学部1部日本文学学科23期(平成31年卒)・同1部英米文化学科23期(平成31年卒)同2部日本文学学科23期(平成31年卒)同2部英米文化学科23期(平成31年卒)及び体育会本部OB会、体育会OB連合会、文化協議会OB会、応援団OB会、クラブOB会、ゼミOB会、地域・職域支部等。

8. 母校行事への協力

予備会員である在学生及びクラブの活動に対して助成をする。学校行事を通じて、大学との交流を促進する。

II. 特別事業

1. 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業として、北海学園国際交流基金への寄付を継続してきたが、北海学園が同基金を取り崩し、学園設置校の国際交流教育活動への効果的な支出ができる国際交流教育振興資金としたため、本会としては引き続き国際交流事業を継続し、今年度も100万円を国際交流教育振興資金に寄付する(32回目)。

2. 北海学園大学同窓会奨学支援規程及び同実施細則に基づく本会奨学事業を実施する。

今年度、19名分228万円を奨学金として支出する他、新型コロナウイルス感染症による困窮学生支援の緊急措置として、大学からの要請に基づき492万円を措置する。

3. 総合名簿作成事業積立金は発刊の見込みが立たないため中断する。

4. 大学・同窓会のオリジナルグッズ等については、同窓会結成70周年(令和6年)にむけて検討を加速する。

5. 森本正夫前同窓会長顕彰事業を学校法人・森本ゼミ会等関係団体と連携して検討する。(新規)

令和3年度 事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 一般事業

1. 豊平会報の発行

豊平会報 第86号 送付 3. 4. 15 経・営・法・人・工学部の住所確定会員41,883名に送付
豊平会報 第87号 印刷・送付 3. 9. 15 経・営・法・人・工学部の住所確定会員42,307名に送付
豊平会報 第88号 印刷・配布 3. 9. 30 新会員(令和3年9月卒業) 80名に配布
また、予備会員である在学生にも配布した。

2. 支部等との連携強化(支部等活動状況(予定)～同窓会本部に連絡のあった分)

新型コロナウイルス感染症リスクを避けるため4月、5月、10月、12月の計4回、各支部へ総会の自粛または延期を文書で依頼をしたため、対面での開催はない。

3. 4 山居部OB会総会 書面開催 4. 2. 5 豊陽会総会 書面開催
3. 4～5 藤牛会総会 書面開催 4. 2 本福会総会 中止
3. 6.10～16 北海学園大学支部総会 書面開催 4. 2. 19 北社会総会 中止
3. 8. 15 会計学友会総会 書面開催

3. 新会員名簿の作成(豊平会名簿 令和2年度版)

令和2年度新会員(令和2年9月卒業・令和3年3月卒業)名簿を作成した。なお、配布については、平成17年4月施行の「個人情報保護法」の取り扱いとの関係で、見合わせる事とし、慎重に対応していく事とした。

4. 「卒業祝賀会・新会員入会歓迎会」の開催

4. 3. 21～22 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、卒業証書・学位記授与式は学部・研究科別に2日に分けて開催されたが、卒業祝賀会・新会員入会歓迎会は中止された。卒業証書・学位記授与式で新会員(1,747名)に卒業記念品を配布した。

5. 「ホームカミングデー」の開催

3. 10. 9 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため同窓会・大学共催による第13回ホームカミングデーは中止した。

6. 「全国支部長会議」の開催

3. 10. 23 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

7. 「総会・懇親会」の準備・運営

世話人・協力団体会議 (第1回) 3. 8. 20 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため「同窓の夕べ」総会・懇親会は中止した。そのため第1回・2回とも会議は開催しなかった。
(第2回) 3. 9. 16 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。
「同窓の夕べ」総会・懇親会 3. 10. 23

8. 母校行事への協力

お祝いの音板(祝卒業) 4. 3. 9 3号館 学生正面玄関取付け
(祝卒業) 4. 3. 9 4号館 入口前門柱取付け
(祝卒業) 4. 3. 9 工学部1号館前柱取付け
(祝卒業) 4. 3. 9 工学部3号館入口取付け
(祝入学) 4. 3. 25 3号館 学生正面玄関取付け
(祝入学) 4. 3. 25 4号館 入口前門柱取付け
各団体への経費助成 全国大会出場・定期演奏会等助成
体育会系12団体・文化会系5団体

「食料支援プロジェクト」 3. 7. 22-23 精米5kg 500袋・2kg 100袋
(自治会・学園生協主催) 3. 11. 27 精米5kg 300袋・物資一式600セット
4. 2. 20 精米5kg 400袋・精米2kg 70袋・物資一式470セット

9. 会務運営に関する諸会議

会計監査 3. 5. 11 (1)令和2年度決算について
(2)その他

幹事会(第1回) 3. 6. 2 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期して開催した。
(1)令和2年度事業報告並びに収支決算について
(2)監査報告について
(3)令和3年度事業計画(案)・予算(案)について
(4)役員選任について
(5)同窓会奨学金について
(6)今後の対応について
(7)その他

(第2回) 3. 11. 4 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期して開催した。
(1)会長の選任について
(2)本年度のスケジュールについて
(3)令和4年度の事業について
(4)その他

(第3回) 4. 1. 13 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期して開催した。
(1)会長の選任について
(2)今後のスケジュールについて
(3)その他

常任幹事会(第1回) 3. 10. 18 (1)会長選任について
(2)本年度のスケジュールについて
(3)令和4年度の事業について
(4)その他

(第2回) 3. 12. 13 (1)会長選任について
(2)本年度のスケジュールについて
(3)その他

臨時評議員会(第1回) 3. 8. 19 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期して開催した。
(1)令和2年度事業報告並びに収支決算の承認
(2)監査報告について
(3)令和3年度事業計画(案)並びに予算(案)の承認
(4)役員選任について
(5)同窓会奨学金について
(6)今後の対応について
(7)その他

(第2回) 4. 2. 1 (1)会長の選任について
(2)その他

副会長会議(第1回) 3. 8. 5 (1)今後のスケジュールについて(案)
(2)同窓会奨学学生選考委員会の開催と第1種奨学金候補者(案)について
(3)臨時評議員会の開催について
(4)新会長の互選について
(5)その他

(第2回) 3. 9. 24 (1)副会長の選任について
(2)今後のスケジュールについて
(3)その他

(第3回) 3. 11. 4 (1)第2回幹事会の進め方
(2)その他

(第4回) 3. 11. 10 (1)会長選任について
(2)その他

(第5回) 3. 11. 17 (1)会長代行について
(2)会長選任について
(3)その他

(第6回) 3. 11. 27 (1)会長選任について
(2)その他

(第7回) 3. 12. 10 (1)お別れの会実施要領の確認
(2)第2回常任幹事会について
(3)その他

正・副会長会議(第1回) 4. 3. 18 (1)副会長の選任について
(2)役員任期と定年制について
(3)役員・評議員の選出の仕方について
(4)会則の検討について
(5)令和4年度日程の確認について
(6)その他

(第2回) 4. 3. 31 (1)副会長の選任について
(2)役員任期と定年制について
(3)役員・評議員の選出の仕方について
(4)会則の検討について
(5)その他

事務局会議(第1回) 3. 8. 18 (1)令和3年度「臨時評議員会」について
(2)その他

(第2回) 4. 3. 15 (1)令和4年度からの同窓会事務局の体制について
(2)その他

会報部会(第1回) 3. 6 (中止)

(第2回) 3. 11 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。)

学生部・事務局と協議 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。)

II. 特別事業

1. 学園創基・大学創立及び本会結成を記念した国際交流基金造成事業として、北海学園国際交流基金へ寄付を継続してきたが、北海学園が同基金を取り崩し、学園設置校の国際交流教育活動への効果的な支出ができる国際交流教育振興資金としたため、本会としては引き続き国際交流事業を継続し、100万円を国際交流教育振興資金に寄付をした。(31回目)

2. 北海学園大学同窓会奨学支援規程に基づく本会奨学事業を実施するため、今年度230万円を加算積み立てるとともに、222万円を奨学金として支出した。なお、新型コロナウイルスによる困窮学生支援のため、緊急措置として今年度限り493万円を加算積み立てとし486万円を奨学金として支出した。

○奨学事業の実施に関する諸会議

奨学学生選考委員会 3. 8. 5 (1)奨学学生選考について
(2)その他

奨学生認定証授与式(中止) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

3. 総合名簿作成事業積立金として、今年度20万円を加算積み立てた。

4. 大学・同窓会のオリジナルグッズ等について、各種事業中止のため検討されなかった。

令和3年度 収支決算書

北海学園大学同窓会 令和3年度 収支決算書

自:令和3年4月1日 至:令和4年3月31日(単位:円)

Main financial statement table for Heiwa Gakuin University Alumni Association, 2021. Includes columns for category, previous year, current year, and detailed descriptions of income and expenses.

(注) 次年度繰越 1. 一般会費 ¥31,509,254(北洋銀行・普通預金) 2. 特別会計(予備金) ¥116,670,000(北洋銀行・定期預金平成30年~令和3年) 予備金受取利息・積立 ¥591(北洋銀行・普通預金) 予備金受取利息合計 ¥7,658,988(北洋銀行・普通預金) 3. 特別会計(特別事業) ¥58,688,685(教育支援特定預金・総合名簿作成事業積立)(北洋銀行・定期預金)

令和4年度 予算

令和4年度 一般会計収支予算書

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日(単位:円)

Budget table for the general account of Heiwa Gakuin University Alumni Association for FY2022. Shows planned income and expenses.

Actual financial statement table for Heiwa Gakuin University Alumni Association for FY2022. Shows actual income and expenses.

令和4年度 予備金予算書

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日(単位:円)

Budget table for the reserve fund of Heiwa Gakuin University Alumni Association for FY2022.

令和4年度 特別事業予算書

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日(単位:円)

Budget table for special projects of Heiwa Gakuin University Alumni Association for FY2022.

事務局からのお知らせ

同窓の夕べ、全国支部長会議について

日頃より同窓会活動にご支援・ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症が依然として猛威をふるっており、収束はおろか第7波の爆発的拡大にさらされております。同窓の皆様にあつてはくれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

さて、今年度の同窓の夕べ、全国支部長会議につきましては、年度当初から人数を絞り、飲食を伴わない会議体での開催を予定しており、具体的内容としては、支部長会議を中心とした構成での開催を進めております。

しかしながら、前述の感染状況への懸念から実施の可否につきましては、今しばらくお時間を頂戴いたしたく存じます。

結論は同窓会ホームページ <http://www.hgu-dousoukai.org/> で9月中旬を目途にお知らせいたします。

同窓の皆様には、3年間にわたりご心配をおかけすることとなり、大変申し訳なく思っておりますが、ご容赦頂けますようお願いいたします。

なお、事業計画にあるとおりホームカミングデーの開催は見送ることといたします。

事務局長就任にあたり 同窓会事務局長 木村 勝照

ながらく北海学園大学同窓会の運営を担われ、今日の隆盛の礎を築かれた高田哲也前事務局長の後を仰せつかりました、経済学部経営学科昭和52年卒業の木村でございます。

私の高校の担任は、三期の林和吉先生でした。先生には最初の就職先もお世話いただきました。改めて過去の資料をみると、混沌の中にあっても戦後の学制改革にいち早く呼応し、道内初の四年制私立大学を設立した本学の先達には改めて敬意をはらうと共に、開学間もない本学へ林先生をはじめ諸先輩が様々な期待や気概を胸に入学されたかが伺い知ることができます。こうした思いに微力ながらお手伝いができることに感謝申し上げます。

昨年は、森本正夫前会長のご逝去、盟友名塩良一郎会長代理を相次いで失うこととなり同窓会にとってはまさに悲嘆にくれた年となりました。

年度も改まり、関寛新会長の下、新たな時代に即した同窓会のあり方を鋭意模索しているところです。皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。



住所変更の際はご連絡をお願いします

お手数でも同封の「住所等変更届はがき」(無料)、ホームページ (<https://www.hgu-dousoukai.org/address/>)、E-Mail (doso.hgu@k8.dion.ne.jp)、または、FAX (011-816-1001) にてお知らせくださいますようお願いいたします。また、会報が不要な方、その他のご連絡については通信欄にご記入をお願いいたします。会報の発送作業の関係上、変更が間に合わない場合がございますので予めご了承ください。個人情報同窓会活動以外には使用いたしません。

北海学園大学同窓会

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40

TEL: 011-841-1161 (内線 1148・1168)

FAX: 011-816-1001

E-Mail: doso.hgu@k8.dion.ne.jp

ホームページ: <http://www.hgu-dousoukai.org/>



北海学園大学旧図書館

梅本 成利 作

経済学部1部経済学科 第29期・昭和57年卒業